

まちづくり委員 意見とりまとめ

資料1

主な該当項目	意見・提案事項
まちの将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想には、松戸ならではのライフスタイルが凝縮的に表現されるべき。例えば、「東京に最も近い田園都市」。 ・全体の空間構成から身近な空間構成など、具体的な空間イメージを描くことが重要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・文化的なまちづくり、クリエイティブなまちづくり。 ・具体例として「食文化」、オリンピックに絡めて「文化プログラム」のまちづくり。
	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺計画は単なる箱モノ開発をせず、緑を生かしたものであることが重要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・松戸駅改良、バリアフリー化整備、駅周辺のまちづくりなど、松戸のよさを引き出していく、全体的に好ましい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣との差別化。例えば、超高齢化社会に向けた対応をいち早く実現するモデル地区。
	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に優しく安全で健康的な都市づくり。
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際都市 東京を中心に、重要な役割を担う衛星都市として、西の横浜・川崎、北のさいたまとともに、“東の松戸”といわれるような街。 ・公共施設の集約とともに、成長産業（例えば医療産業（研究所）など）の誘致について、検討してはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想素案の理念的な部分に関しては、概ね賛同する。 ・道路・河川といったハード面や、歴史・文化などのソフト面を保護改善し、より住みやすい街を目指す。
ゾーンにとらわれない 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援（保育所の設置）や災害対策（停電に備えた補助電源の確保や避難所の確保）も基本構想と連携して検討。
	<ul style="list-style-type: none"> ・駅の東西通路に市内各地域で開催されるイベント情報を流す。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「松戸白宇宙かぼちゃ」を街おこしに活用（ブランド化、イベント）。 ・情報発信機能の強化（コミュニティFMの開設・まちづくりや災害時の対応としてのFM電波の取得）。
	<ul style="list-style-type: none"> ・未利用地を生かした、公園（ポケットパーク含む）、病院等の施設整備。 ・地域の合意形成（住民と一体となった街づくり）（花の街推進、クリーンアップ、マップ作成）。 ・イベント等の実施による集客（インフォメーションセンター、食べ歩き、オープンカフェ等）。

まちづくり委員 意見とりまとめ

資料1

主な該当項目	意見・提案事項
新拠点ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・「まつどマルシェ」を駅周辺に開設(中央公園あたり)。毎週末、市場と食べ物ショッパで盛り上げる。松戸無農薬野菜、農家レストラン。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民会館、プラネタリウム、図書館などの施設を、出来るだけまとめて設置し、移動しやすい導線確保。 ・学童保育所なども近くに設置し、子どもたちがこれらの施設を身近に利用出来るようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の用途として3つ(公認のアリーナ(体育館)、図書館、プラネタリウム)。 ・交通機関の利便化(新拠点ゾーンへの市内からのアクセス強化)。
	<ul style="list-style-type: none"> ・相模台地区の整備による新拠点づくりを進めるとともに、併せてアクセスルートの整備を検討していくことが急務。
商業業務ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> ・駅周辺中心地を徹底的に歩く空間として整備してはどうか。 ・歩くまち＝松戸(道の舞台化、小さな広場、辻広場、街全体がギャラリー、ベンチ、縁台など)。 ・駐車場の整備とともに、ヨーロッパのまちのように歩車共存の空間の考え方を検討する。 ・東西のシンボル軸に加えて南北の軸を整備し回遊性のある歩行者空間を整備する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐできる駅前活性化策として、駅中に「まつどブランドショッパ」を作り、松戸の銘菓、特産品を販売。 ・大学連携「まつどコンソーシアム」構想。知の拠点活性化。
	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震・防災の面でブロック毎の再開発を推進すべき。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の市庁舎の土地を中央省庁に売却し、国土交通省や経済産業省などの主要行政機関を誘致してはどうか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「大型店や江戸川などの拠点間の回遊」、「大規模店舗への回遊性の確保」など、回遊性を高めることが重要。 ・新駅ビルから伊勢丹までの歩行者動線の整備。 ・西口公園周辺の開発、シティホテルの誘致。
	<ul style="list-style-type: none"> ・東口バスターミナルの高度利用。 ・東口の駅前広場の整備。 ・回遊性を高めるためには、個店の連続性が必要であり、地元商業者の努力が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の活性化のためには、回遊性の向上が重要(新たな東西自由通路の整備など、デッキ網の強化)。

まちづくり委員 意見とりまとめ

資料1

主な該当項目	意見・提案事項
シンボル軸	・社会の多様化、オリンピック・パラリンピックで外国からの訪問者が増えることから、駅、主要道路、観光地の標識に英語併記。
	・東口の拠点整備の計画があるが、西口にもシンボル軸に拠点を整備。
	・JRで街が東西に分断されているため、東西口へのエスカレーター設置は必要。
	・東口の新拠点の整備に伴う跡地の有効利用(図書館だけでなく、中部小、旧商工会議所、NTTを含めた再開発)。 ・一平橋から江戸川までのバリアフリー化と電線地中化。 ・江戸川への架橋。 ・シンボル軸の整備については、駅から江戸川までを統一したデザインに(舗装、街路樹、街路灯の統一化)。
	・駅からのアクセス強化(デッキを広げバリアフリー化)。
水・歴史資源	「矢切道の駅」構想。外環道に、松戸を知る場所を作り、活性化させる。
	江戸川(ふれあい松戸川)の整備(樋野口から赤塚樋門までの約300mを花畑に)。
その他	・今後、新拠点ゾーンの整備や公園整備など、具体的な事業を実施する際には、住民協働のまちづくりを推進するためにも、地元組織と連携を密にし、進めてもらいたい。
	・計画案を進めるにあたり、ゾーンの優先順位を早期に明確化すべきと考える。 ・特に、「新拠点ゾーン」と「商業・業務ゾーン」については、行政だけでなく、民間活力の導入・連携が必要不可欠と考える。